

## 第 37 回評価委員会における委員意見及び対応（案）

No.	第 37 回評価委 資料	委員意見	対応（案）
1	参考資料 1	【小松委員】 3 章目次の並べ方で、インプット 原因 結果と並べた方がよいため、5 番の潮流・潮汐を 3 に入れてはどうか。	目次（イメージ）はこれで固めたものではない。 ご意見を踏まえ、読み手に分かりやすい構成を検討する。
2	資料 3-2 A2 (P26)	【古賀委員】 A 2 海域では、水産庁の現地実証では覆砂が実施されているが、各県の事業ベースではあまり実施されていない。粒径加積曲線のみから多くの点を評価対象外にするのは違和感がある。各県に正確な覆砂エリアを確認し、検討する必要がある。	ご意見を踏まえ、関係県からの覆砂事業実施エリアを確認し、評価を行った。
3	資料 3-8 有明海 全般	【中田（薫）委員】 資料に載っているのは着底してしまった貝である。浮遊幼生は他の海域にソース（母貝）があり、それが変化しなければ浮遊幼生数も変化しない可能性がある。母貝がどこにあって、どのように運ばれたというような変化のまとめが必要。海域ごとに記載するとこのようになってしまう。	有明海における浮遊幼生調査結果及びその考察について、有明海全体のパートにおいて記載した。
4	資料 3-6 A6	【速水委員】 報告書で 1970 年代からの変化を扱うということであれば、A 6 海域はかつてタイラギの漁獲があり、それがなくなったことを取り上げるべき。	第 31 回評価委員会資料 2-3「有明海の有用二枚貝類に係るこれまでの検討状況のとりまとめ（たたき台）」における「諫早湾は、1993 年以降漁業が行われておらず、評価に必要な情報が得られなかったため、今回の評価対象から除外した。」との記載を踏まえて記載していない。更にご意見があればいただきたい。

No.	第 37 回評価委 資料	委員意見	対応（案）
5	資料 3-6 A6	【速水委員】 底質のデータは諫早湾口の 1 点のみであり、貧酸素に関するデータも示されていない。諫早湾内は農政局による調査が行われており、調査点数も多い。期間も 2005 年以前からある。今後取り上げていくべき。	今後検討する。
6	資料 3-6 A6 (P5)	【上田委員、岡田委員長】 ベントスについて、同じ個体数に変化がなくても種構成が異なれば環境が違ふと思われるため、そのあたりを考察されたい。	種組成の変遷については、海域ごとに考察を入れており（本資料 4-6 P.5）、その内容についてご意見をいただきたい。
7	資料 3-8 有明海全体 (P6)	【西村委員】 問題点とその原因・要因を考察していくには、まずその問題点が何かということが明示される必要がある。 例えば、ノリの色落ちについて、2000 年は生産量が非常に落ち込んでおり、問題点だと思うが、その後をどう見るか。例えば 2000 年以降とそれ以前で分けて問題点として捉えて、その原因・要因を考察するのはどうか。 平面的な区分はこれでよいと思うが、今度は時間的な観点で問題点をどう捉えるのかを少し整理されたい。	ご意見も参考に、どのように整理すれば分かりやすい報告書となるのか、検討する。
8	資料 3-4 A 4 (P3)	【内藤委員】 アサリの減少要因に底質中のマンガンの影響が挙げられている。マンガンの影響が A 4 でのみ測定されているのか、それとも他海域でも測定されているが A 4 海域の要因の特徴として挙げられているのか。	マンガン関係について記載した（本資料 4-4 P.14）。

No.	第 37 回評価委資料	委員意見	対応（案）
9	資料全般	【中村委員】 底質の変化について、深さ方向の記録として過去の状態がある程度保存されているものとして、コアサンプルの底質データを活用すれば、過去を類推するいい材料になると考える。	これまでに有明海において実施された底質コア抜き調査結果の内容を確認した。堆積・浸食を繰り返す海域における調査結果が、有明海再生に向けた評価にどのように活用できるか検討する。
10	資料全般	【山田委員】 連関図を見れば、海域ごとの特徴が詳しくわかるのではないかと考えるが、海域ごとにどのように異なるのか説明されたい。特徴ある要因は線を太くするなど工夫すれば見やすくなる。	現段階では、可能性がある要因は残した連関図としているため、海域ごとの相違点はあまりない。各要因の影響度合いを定量的に把握し、線を太くする等の工夫をすることについては困難であると考えられるため、まずは本文で海域ごとの特徴を示すことを優先して議論を進めたい。
11	資料全般	【古賀委員】 第 35 回評価委員会で、海域相互間の S S 流入・流出等をシミュレーションすることが示されていたが、その結果が示されるとの理解でよいか。	水、懸濁物、栄養塩の流れについてシミュレーションモデルを活用して試算する旨「第 35 回評価委資料 2-2」に示している。次回以降、試算結果を示し、議論いただきたいと考えている。
12	（スケジュール）	【山本委員】 最終的には対策の提案に結びつくものを出すことが目的だと認識している。5 章に記載する再生方策に関する議論は、いつ、どのような形で始めることになるのか。スケジュールを示されたい。	平成 28 年度に入っても、小委員会、評価委員会を重ねて開催する必要があると考えている。5 章関係についてもなるべく早く資料を示し、議論を開始したい。